

日本儒教学会2019年度大会

シンポジウム (13:30~17:00 36号館382教室)

儒教の広がり と 多様性—琉球・ベトナム・満清—

趣 旨：儒教というと日・中・韓の3カ国を対象として語られることが多い。だが、この他に、かつては日本と別の国家だった琉球、科挙制度を導入していたベトナムなどにも浸透していた。また、清朝においては儒教經典の満洲語訳が作成されて旗人官僚に読まれていた。これらについても検討してはじめて、儒教の複層的な全体像を描くことができるだろう。

本シンポジウムでは、琉球国における儒教の政治的・文化的な意義についての報告、ベトナム諸王朝の儒教的教化と在地社会の関係についての報告、清朝における漢籍古典の満洲語への翻訳と儒教理解の内実についての報告の3つが行われる。空間的広がりのみならず、儒教が具える多様な側面についての議論を共有することによって、東アジア全体の問題としてあらためて捉え返してみたい。

報 告：中村 春作（広島大学名誉教授）

近世琉球と儒教

報 告：嶋尾 稔（慶應義塾大学）

ベトナム阮朝の漢文訓諭と民間におけるその受容

報 告：渡辺 純成（東京学芸大学）

清初における満洲語儒教書と「格物」理解

コメンテーター：小島 毅（東京大学）

司 会：林 文孝（立教大学）

以 上